

一般演題5 O5-2 潜水事故の傾向について

野澤 徹^{1) 2)} 平川雅一¹⁾ 白石健太¹⁾
宮里一敏¹⁾

- 1) (一財)海洋レジャー安全・振興協会
- 2) 水中科学研究所

(一財)日本海洋レジャー安全・振興協会では、海上保安庁のホームページ等の公開情報などから毎年レジャーダイビングでの事故分析を行っている。ここ10年程度のスパンでの潜水事故の傾向について、特徴的な事実を示すことにしたい。

ダイビングでの事故は、重大な結果に結びつく。実際、2010年から2019年の10年間で462件の事故があり、そのうち死亡・行方不明は157件で、死亡・不明が占める割合は、34.0%であった。この傾向は、それほど変化していない。平成25年はレジャーのみで見ると全体で49名、死亡・不明者は17名(全体の34.7%)であった。これまでの統計では、死亡・行方不明で男性が有意に多いことが示されていたが、ここ5年間(2015-2019)では有意差がなくなっている(男

性42件、女性31件；男性割合：57.5%)。10年間で、男女のダイビングの特徴に何らかの変化が生じていることが示唆される(図1)。因みに2004年から2013年の10年間では、死亡・不明で男性が占める割合は全体の77.7%となっている。

また、中高年ダイバーの事故の割合が多いことも特徴的である。2019年の事故では50歳以上のダイバーが占める割合は、全体の53.7%で、死亡・行方不明では50歳代以上が68.8%とさらに増加している。

特に注目したいのが、ダイビング経験のない者の事故が近年顕著に増加していることである。これは、ダイビング講習や「体験ダイビング」といった活動での事故である(図2)。講習や体験ダイビングは、未経験者がダイバーになるための入り口で、最も安全に配慮されるべき場であることは論をまたない。2019年単年でみると、「経験なし」の事故が全体に占める割合は26.8%に上る。5年単位で見ると、2015-2019年で、全体の21.1%であり、2006-2010年の5年間では7.4%であったことから、有意に増加していることがわかる。ダイバーが増加しなければレジャーでのダイビング産業は発展しないであろうから、この問題は極めて重大であると思われる。

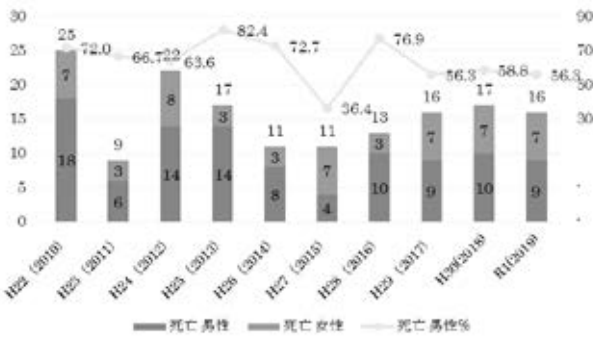


図1 10年間の男女別死亡・不明の推移

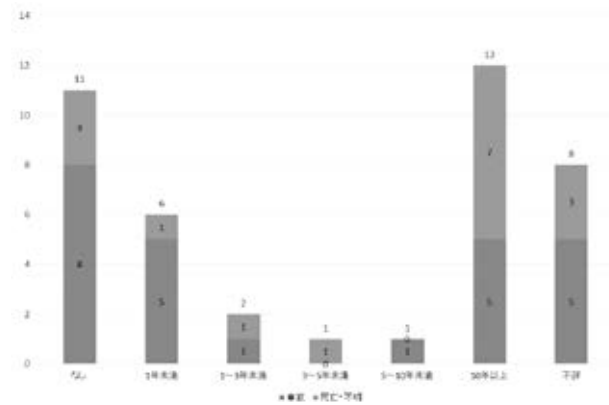


図2 2019年の経験年数別事故件数